

経済情勢

(4月の経済指標を中心に)

全国、中国ともに、景気は、このところ弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。先行きについては、中国経済の減速などを背景とした海外経済の下振れや、物価上昇などによる経済活動への影響が懸念される。

(全国)

個人消費	持ち直しの動きに足踏みがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（4月）は前年を上回った
設備投資	機械受注（4月）は前年を上回った
公共投資	公共工事請負額（4月）は前年を上回った
輸出	輸出金額（4月）は前年を上回った
生産動向	横ばい圏内ながら、一部に弱さがみられる
雇用情勢	改善の動きが弱まっている

(中国)

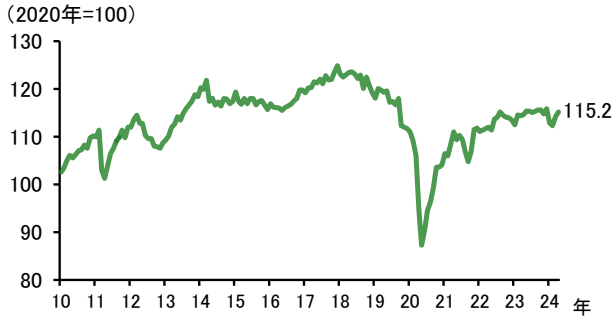
個人消費	持ち直しの動きに足踏みがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数（4月）は前年を上回った
公共投資	公共工事請負額（4月）は前年を上回った
輸出	輸出金額（4月）は前年を上回った
生産動向	横ばい圏内ながら、一部に弱さがみられる
雇用情勢	改善の動きが弱まっている

1. 景気動向指数・景気ウォッチャー調査(4月)

景気動向指数(全国C I)の一致指数は、2カ月連続で上昇、先行指数は、3カ月ぶりに低下した。
 景気ウォッチャー調査(現状判断D I)は、全国は2カ月連続で低下、中国は3カ月ぶりに低下した。

● 景気動向指数(C I)

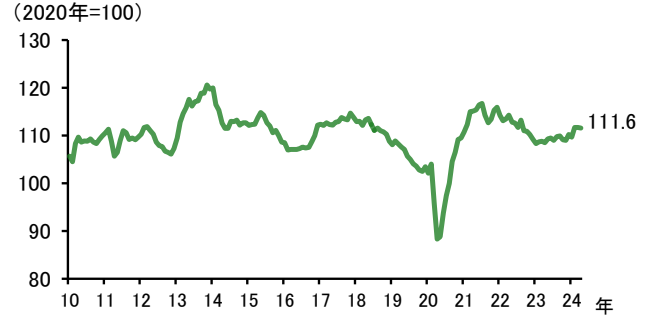
(一致指数)
 ・115.2(前月差+1.0ポイント)と2カ月連続で上昇。



C I 一致指数(前月差) 1.0

指標名	寄与度
商業販売額(卸売業)	0.69
耐久消費財出荷指数	0.20
商業販売額(小売業)	0.17
投資財出荷指数(除輸送機械)	0.16
輸出数量指数	0.10
営業利益(全産業)	0.03
労働投入量指数(調査産業計)	▲0.01
鉱工業生産指数	▲0.01
鉱工業用生産財出荷指数	▲0.10
有効求人倍率(除学卒)	▲0.28

(先行指数)
 ・111.6(前月差▲0.1ポイント)と3カ月ぶりに低下。



C I 先行指数(前月差) ▲0.1

指標名	寄与度
新規求人数(除学卒)	▲0.67
消費者態度指数	▲0.55
マネーストック(M2)	▲0.29
最終需要財在庫率指数(逆)	▲0.16
東証株価指数	▲0.12
中小企業売上げ見通しD I	0.15
日経商品指数(42種総合)	0.34
鉱工業用生産財在庫率指数(逆)	0.44
新設住宅着工床面積	0.76
実質機械受注(製造業)	
投資環境指数(製造業)	

注: 1. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。資料は内閣府「景気動向指数(速報)」。
 2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要な景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するために作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。

● 景気ウォッチャー調査(D I)

(全国)
 ・現状判断D Iは、47.4(前月差▲2.4ポイント)と2カ月連続で低下。
 ・先行き判断D Iは、48.5(前月差▲2.7ポイント)と2カ月連続で低下。



(中国)
 ・現状判断D Iは、46.3(前月差▲5.0ポイント)と3カ月ぶりに低下。
 ・先行き判断D Iは、45.8(前月差▲4.7ポイント)と3カ月連続で低下。



注: 1. 景気ウォッチャー調査は、地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的としている。資料は内閣府「景気ウォッチャー調査」。

2. 季節調整値

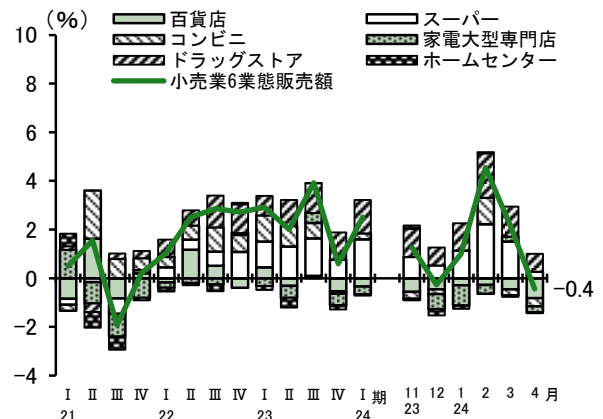
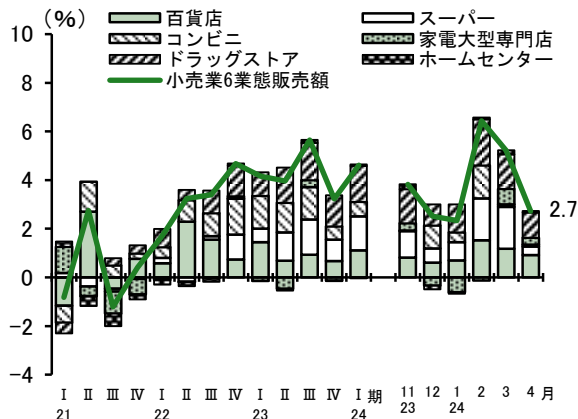
2. 個人消費 (4月)

全国、中国ともに、持ち直しの動きに足踏みがみられる。

● 小売業6業態販売額 [対前年伸び率]

(全国) ドラッグストア、百貨店などを中心に増加し、29カ月連続で前年比プラス(前年同月比+2.7%)。食品等を中心に店頭価格の上昇が売上を押し上げているものの、物価上昇による節約志向がみられる。今月は、円安効果などから百貨店におけるインバウンド向けの売上(免税品売上)が過去最高を更新した。

(中国) 百貨店、家電大型専門店などを中心に減少し、4カ月ぶりに前年比マイナス(前年同月比▲0.4%)。全国同様、物価上昇による節約志向がみられる。全国に比べインバウンドのウエイトが小さく、売り場面積も縮小している百貨店が低調に推移し、6業態全体の販売額を押し下げている。



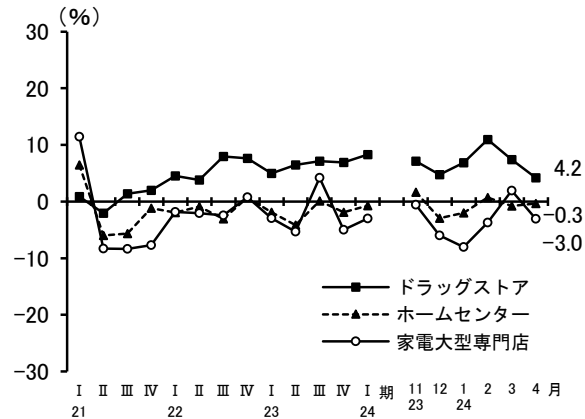
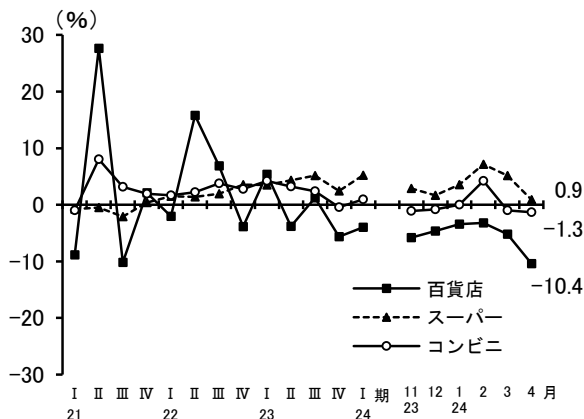
注：1. 全店舗ベース 2. 小売業6業態は、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

○ 百貨店・スーパー・コンビニエンスストア販売額 [対前年伸び率]

○ ドラッグストア・ホームセンター・家電大型専門店販売額 [対前年伸び率]

(中国)
 ・百貨店は、一部店舗の売場面積縮小などの影響で、8カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲10.4%)。今月は、例年4月にあった一部高級ブランドの値上げが3月に行われたことで駆け込み需要が前倒され、減少幅が拡大した。
 ・スーパーは、相場が高止まりしている牛肉や豚肉等が振るわなかったものの、花見需要などにより弁当、揚げ物などが好調に推移し、22カ月連続で前年比プラス(同+0.9%)。
 ・コンビニは、価格上昇により調理パンやチルド弁当などが低調に推移し、2カ月連続で前年比マイナス(同▲1.3%)。

(中国)
 ・ドラッグストアは、新店効果で食品等が増加したほか、調剤薬局併設店の増加により調剤医薬品が好調に推移し、28カ月連続で前年比プラス(前年同月比+4.2%)。
 ・ホームセンターは、物価上昇による節約志向から、これまで好調に推移してきたペット用品が頭打ちとなったことなどで、2カ月連続で前年比マイナス(同▲0.3%)。
 ・家電大型専門店は、気温高の影響でエアコン等が良く売れたものの、冷蔵庫や洗濯機の売上が低価格モデル中心だったことで2カ月ぶりに前年比マイナス(同▲3.0%)。

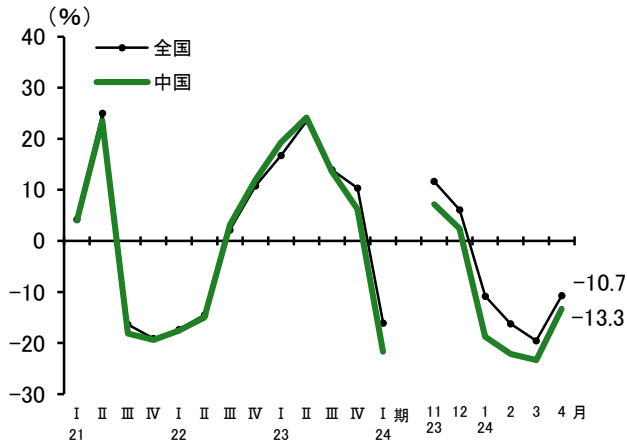


注：全店舗ベース
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

● 新車登録・届出台数(乗用車) [対前年伸び率]

(全国) 軽、小型、普通乗用車がいずれも減少し、4カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲10.7%)。年末以降、一部メーカーの認証不正問題により、生産停止となった軽を中心に大きく落ち込んでいたが、生産・出荷再開が段階的に進んだことでマイナス幅は縮小した。

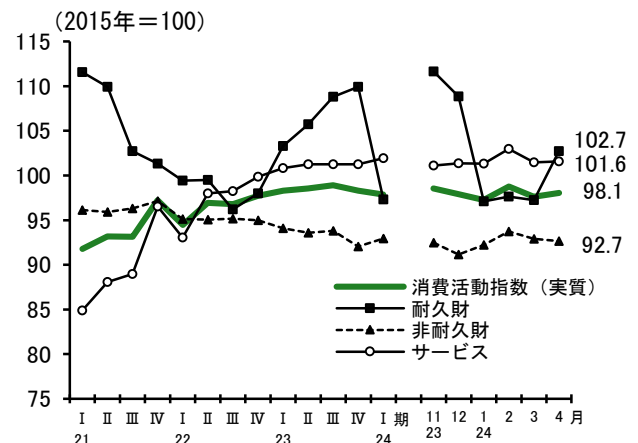
(中国) 軽、小型、普通乗用車がいずれも減少し、4カ月連続で前年比マイナス(同▲13.3%)。全国同様、生産停止となった軽を中心に大きく落ち込んでいたが、生産・出荷再開が段階的に進んだことでマイナス幅は縮小した。



資料：中国運輸局「新車登録・届出状況」、
(一社) 全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費活動指数(実質)

(全国)
 ・消費活動指数(季節調整済)は98.1(前月比+0.4%)と、2カ月ぶりに前月を上回った。
 ・耐久財は、これまで落ち込んでいた自動車の生産・出荷再開が段階的に進んだことなどにより、前月を上回った。
 ・非耐久財は、春物衣料等が振るわず前月を若干下回ったものの、気温が高く推移したことにより、夏物需要がみられた。
 ・サービスは、連休や行楽行事といった外出機会の増加により、外食や旅行需要が高まったことで、前月を若干上回った。



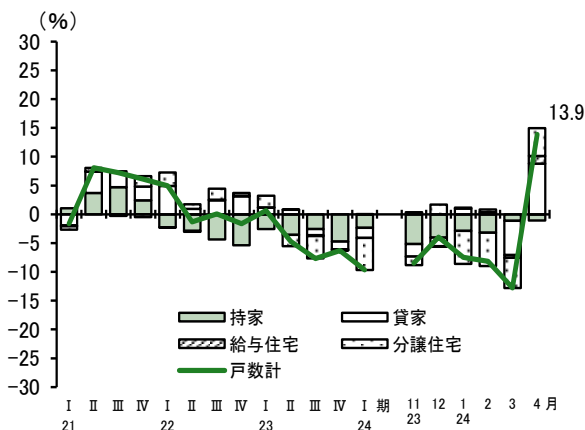
注：1. 季節調整済指数
 2. 消費活動指数の形態別ウエイトは、耐久財8.9、非耐久財40.5、サービス50.7
 資料：日本銀行「消費活動指数」

3. 住宅投資(4月)

新設住宅着工戸数は、全国、中国ともに前年を上回った。

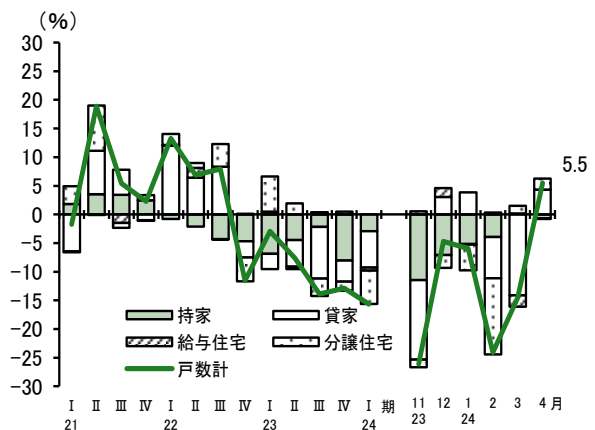
● 新設住宅着工戸数 [対前年伸び率]

(全国)
 持家が減少したものの、貸家、分譲住宅、給与住宅が増加し、11カ月ぶりに前年比プラス(前年同月比+13.9%)。



注：持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度
 資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

(中国)
 持家、給与住宅が減少したものの、貸家、分譲住宅が増加し、7カ月ぶりに前年比プラス(前年同月比+5.5%)。



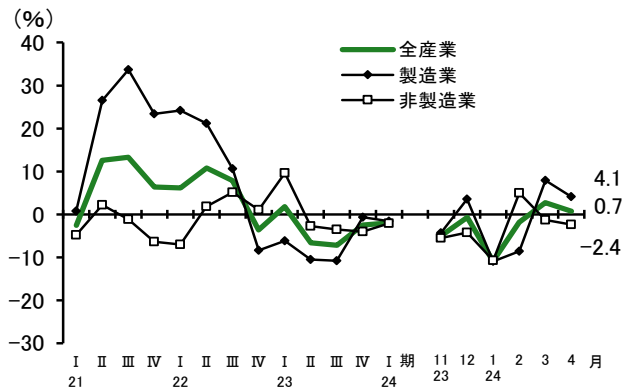
4. 設備投資・公共投資（4月）

機械受注（全国）は、非製造業が減少したものの、製造業が増加し、前年を上回った。
公共工事請負額は、全国、中国ともに前年を上回った。

● 機械受注額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 2カ月連続で前年比プラス（前年同月比+0.7%）。
- ・ 製造業（同+4.1%）は、化学、繊維工業などが減少したものの、食品製造業、はん用・生産用機械などが増加し、2カ月連続で前年比プラス。
- ・ 非製造業（同▲2.4%）は、通信業、不動産業などが増加したものの、リース業、金融業・保険業などが減少し、2カ月連続で前年比マイナス。



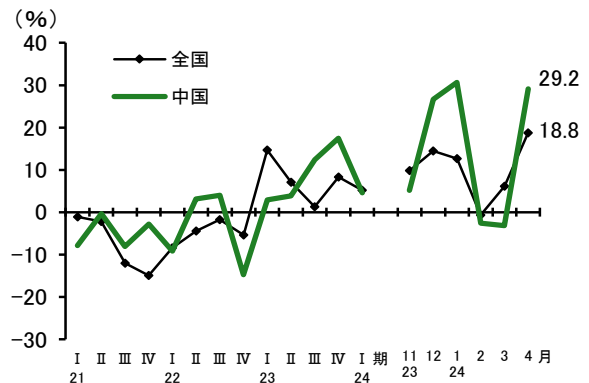
注：機械受注額は民需の合計であり、全産業、非製造業とも船舶・電力を除く数値

資料：内閣府「機械受注統計調査報告」、北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

● 公共工事請負額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 国からの発注が減少したものの、市町村、その他公共団体、独立行政法人等、都道府県からの発注が増加し、2カ月連続で前年比プラス（前年同月比+18.8%）。
- ・ (中国) 県からの発注が減少したものの、独立行政法人等が高い伸びだったほか、市町村、その他公共団体や、国からの発注が増加し、3カ月ぶりに前年比プラス（同+29.2%）。

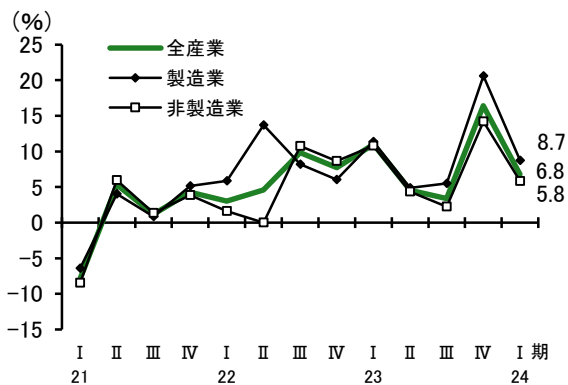


● 法人企業統計（2024年1-3月期）

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 1-3月期の設備投資額は、12四半期連続の前年比プラス（前年同期比+6.8%）。
- ・ 製造業は12四半期連続のプラス（同+8.7%）。
- ・ 非製造業は7四半期連続のプラス（同+5.8%）。



注：1. 金融業・保険業を除くベース

2. ソフトウェア投資額を含む

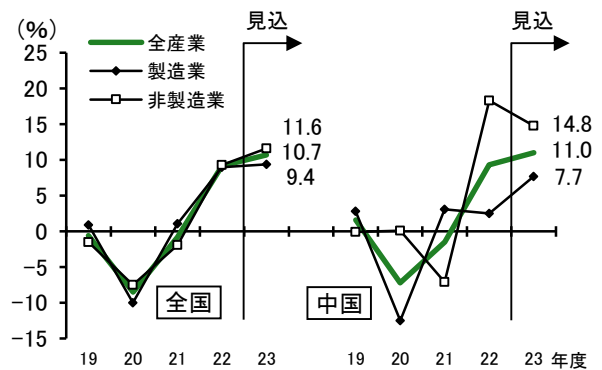
資料：財務省「法人企業統計」

● 企業短期経済観測調査（日銀短観2024年3月調査）

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 2023年度の設備投資は、2年連続で前年を上回る見込み（前年度比+10.7%）。製造業、非製造業ともにプラス。
- ・ (中国) 2023年度の設備投資は、2年連続で前年を上回る見込み（同+11.0%）。製造業、非製造業ともにプラス。



注：1. 企業短期経済観測調査（短観）は四半期ごとに公表されている

2. 土地投資額を含む、ソフトウェア投資額と研究開発投資額は含まない

資料：日本銀行「短観（全国企業短期経済観測調査）」、日本銀行広島支店「企業短期経済観測調査結果の概要」

5. 輸出・輸入(4月)

輸出金額は、全国、中国ともに前年を上回った。

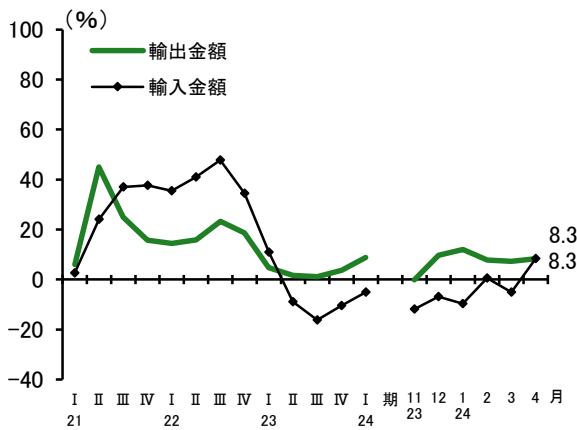
● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

(全国)

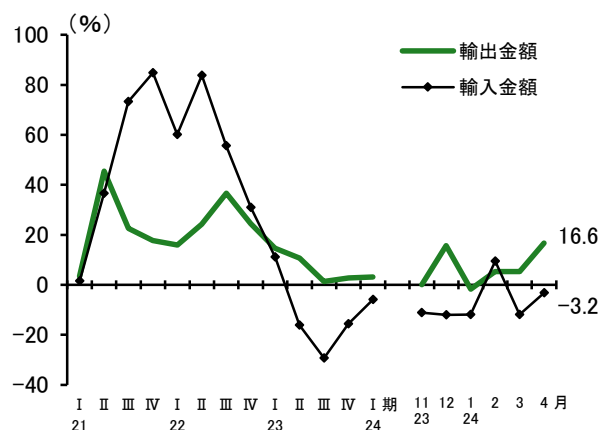
- ・ 輸出金額は5カ月連続で前年比プラス(前年同月比+8.3%)。品目別にみると、円安等による輸出金額の押し上げに加え、自動車生産の段階的な正常化により、欧米向けを中心に自動車が増加したほか、アジア向けに半導体等製造装置や半導体等電子部品が増加した。
- ・ 輸入金額は2カ月ぶりに前年比プラス(同+8.3%)。品目別にみると、石炭、半導体等電子部品などが減少したものの、原油や航空機類などが増加した。

(中国)

- ・ 輸出金額は3カ月連続で前年比プラス(前年同月比+16.6%)。品目別にみると、車種切り替えの影響によりこのところ減少していた自動車が欧州向けを中心に増加したほか、アジア向けに半導体等製造装置などが増加したことで、前年比プラスとなった。
- ・ 輸入金額は2カ月連続で前年比マイナス(同▲3.2%)。品目別にみると、鉄鉱石などが増加したものの、原油、石炭などが減少した。



注: 1. 輸出金額、輸入金額は円ベース 2. 輸出確報; 輸入速報(9桁)
資料: 財務省「貿易統計」、神戸税関「中国圏・各県貿易統計」



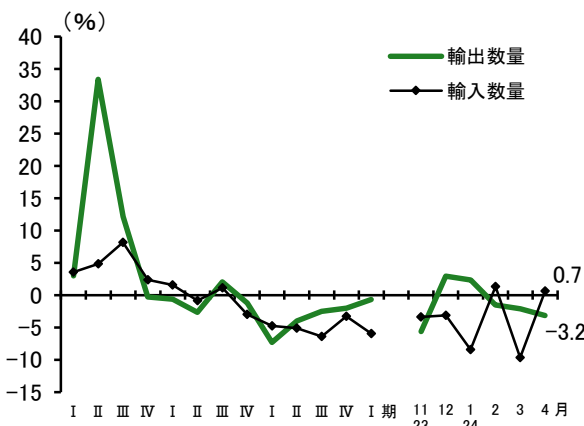
● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

(全国)

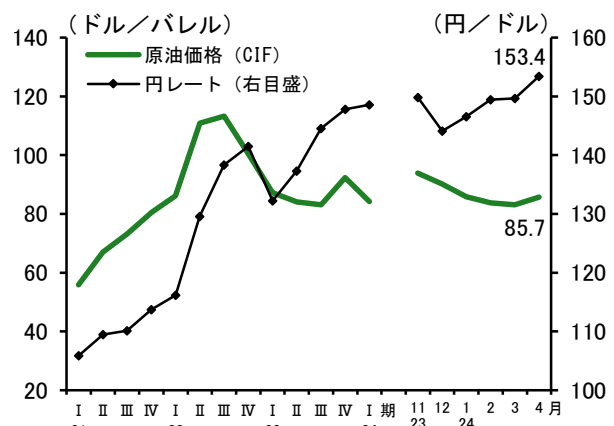
- ・ 輸出数量は3カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲3.2%)。
- ・ 輸入数量は2カ月ぶりに前年比プラス(同+0.7%)。

● 原油価格・円レート

- ・ 原油価格は85.7ドル/バレルと前年に比べ2.2ドル上昇(前月に比べ2.7ドル上昇)。
- ・ 円レートは153.4円/ドルと前年に比べ20.1円の円安(前月に比べ3.8円の円安)。



注: 1. 輸出数量、輸入数量とも2015年=100とした指数 2. 輸出確報; 輸入速報(9桁)
4. 円レートは東京外国為替市場の銀行間中心レートの月中平均値
資料: 財務省「貿易統計」



6. 生産動向 (4月)

全国、中国ともに、横ばい圏内ながら、一部に弱さがみられる。

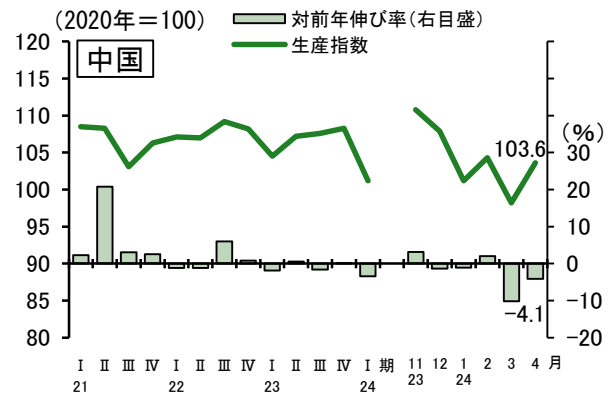
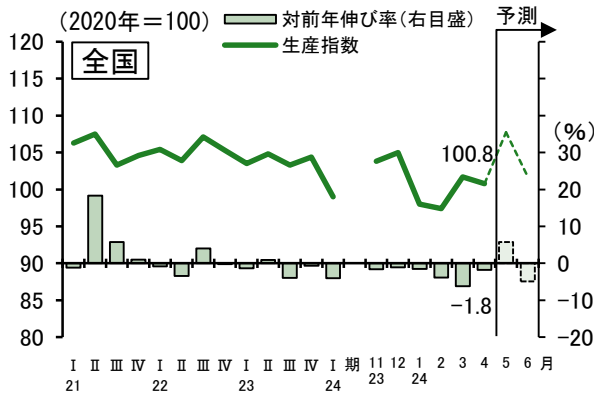
● 鉱工業生産指数 (総合)

(全国)

- 生産指数 (季節調整済) は、100.8 (前月比▲0.9%) と2カ月ぶりに前月を下回った。鉄鋼、汎用・生産用・業務用機械などが上昇したものの、国内外の需要低迷が続く化学が低下したほか、電気機械、自動車などが低下した。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比▲1.8%と6カ月連続でマイナスとなった。

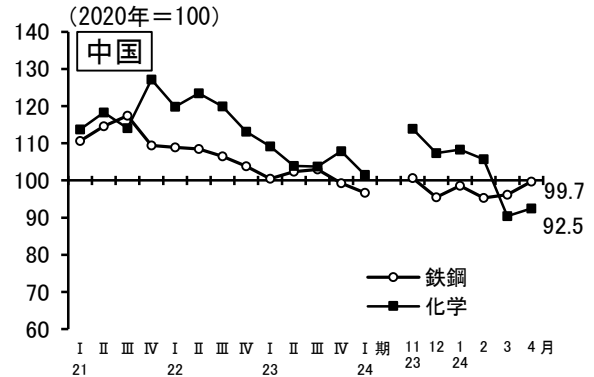
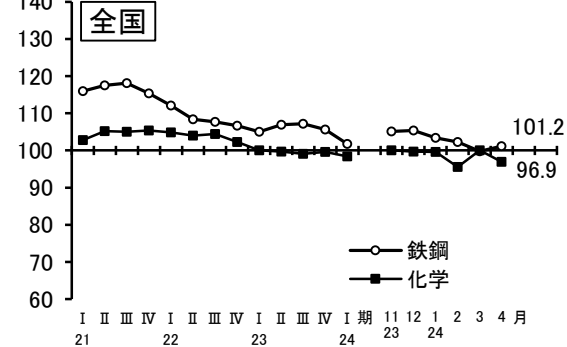
(中国)

- 生産指数 (季節調整済) は、103.6 (前月比+5.5%) と2カ月ぶりに前月を上回った。大型受注のあった汎用・生産用・業務用機械が高い伸びとなったほか、車種切替の影響が薄れたことなどにより、1月に大きく落ち込んだ自動車も段階的に回復している。
- 生産指数 (原指数) は、前年同月比▲4.1%と2カ月連続でマイナスとなった。



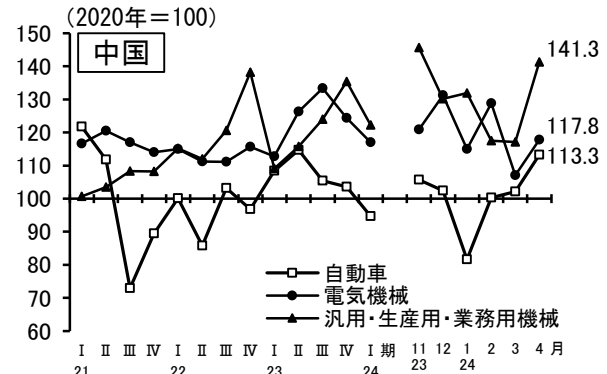
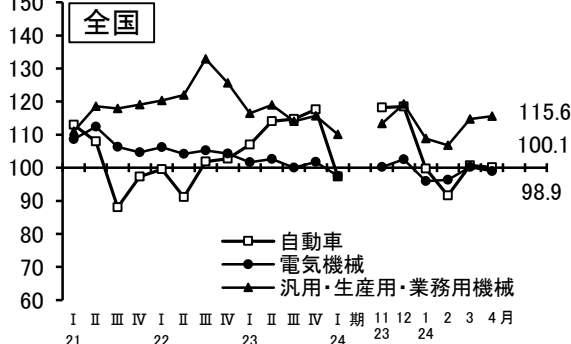
● 鉱工業生産指数 (素材)

(2020年=100)



● 鉱工業生産指数 (機械)

(2020年=100)



注： 1. 生産指数は季節調整済指数 2. 生産指数の対前年伸び率は原指数による 3. 予測値は「製造工業生産予測調査」の製造業の値を基に算出 4. 中国の最新月は速報値 5. 全国は2023年4月確報分、中国は2024年1月速報分より、鉱工業生産指数の基準値が2015年から2020年に改定された 6. 「電気機械」は全国では1995年基準の業種分類を適用（電気機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業の合計） 7. 「汎用・生産用・業務用機械」は全国では「汎用・生産用・業務用機械工業」、中国では「汎用・業務用・生産用機械工業」 8. 「自動車」は中国では「自動車（乗用車・トラック・主要部品）」

資料：経済産業省「鉱工業（生産・出荷・在庫）指数確報」「製造工業生産予測調査」、中国経済産業局「中国地域鉱工業生産動向」

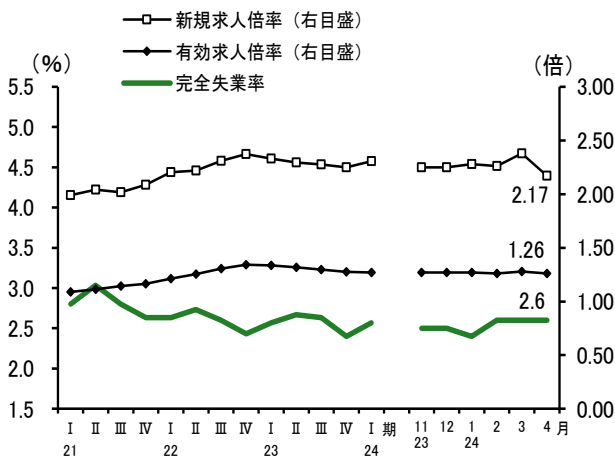
7. 雇用情勢 (4月)

全国、中国ともに、改善の動きが弱まっている。

● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

(全国)

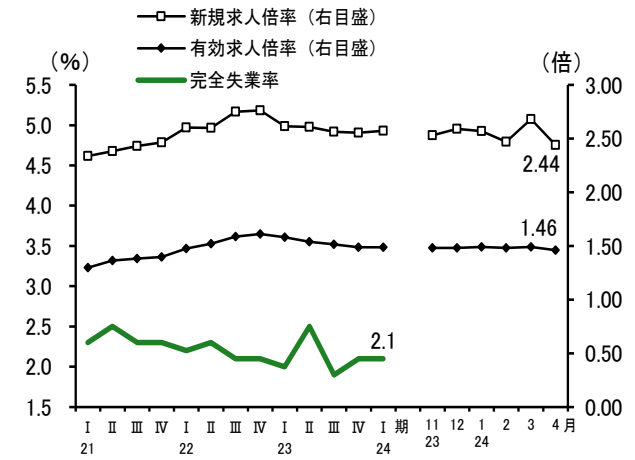
- ・完全失業率は2.6% (前月差±0.0ポイント) と横ばい。
- ・有効求人倍率は1.26倍 (同▲0.02ポイント) と2カ月ぶりに低下した。
- ・新規求人倍率は2.17倍 (同▲0.21ポイント) と2カ月ぶりに低下した。



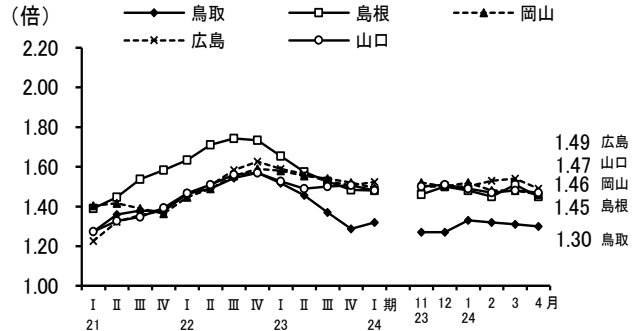
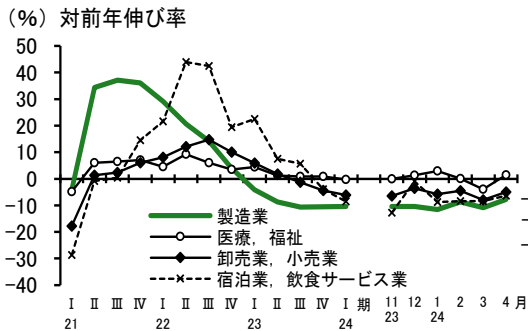
主要産業における新規求人倍率の推移 (全国)

(中国)

- ・有効求人倍率は1.46倍 (前月差▲0.03ポイント) と2カ月ぶりに低下した。
- ・新規求人倍率は2.44倍 (同▲0.24ポイント) と2カ月ぶりに低下した。



有効求人倍率の推移 (中国5県)

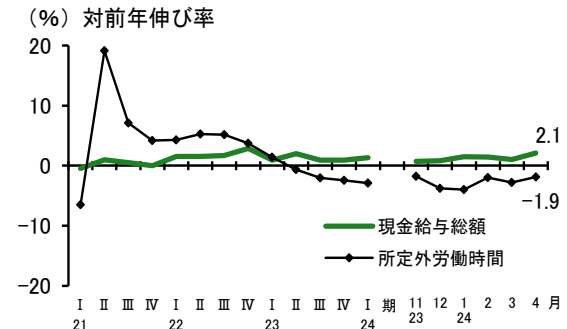


注：完全失業率の月次、有効求人倍率、新規求人倍率は季節調整値、完全失業率の四半期は原数値
資料：総務省「労働力調査報告」、厚生労働省「職業安定業務統計」

● 現金給与総額、所定外労働時間

(全国)

- ・現金給与総額は28カ月連続で前年比プラス (前年同月比+2.1%)。
- ・所定外労働時間は、10カ月連続で前年比マイナス (同▲1.9%)。うち製造業は16カ月連続で前年比マイナス (同▲0.7%)。



注：1. 事業所規模5人以上の指数 (2020年=100) の対前年伸び率 2. 最新月は速報値
資料：厚生労働省「毎月勤労統計調査」